

実践研究報告書

中部教育事務所指導主事 矢野有茶

1 研究の成果と課題をふまえた平成 28 年度の実践内容

私は平成 26、27 年度の 2 年間、「子どもの心に響く読み物資料に関する一考察」というテーマを掲げ、多くの道徳授業で扱われている読み物資料の研究を行った。読み物資料は、主人公の生き方を通してそれぞれの子供たちが多様な考え方をもち、議論しながら道徳的価値の自覚を深めていく上で大きな役割を持っているからである。

2 年間の研究を通して、「子供たちの発達段階に応じて読み物資料を選定すること」や「実話資料の生かし方」、「共通して心に残った場面の生かし方」等の具体的な活用方法を考えることができたことは大きな成果である。一方、どんなに効果的な要素を持つ読み物資料であっても、『教師に効果的に活用する視点がなければ子供の心に響く授業はできない』という検証ができ、心に響く授業を目指す上での課題を明確にすることができた。

今年度は高知県教育委員会中部教育事務所の指導主事として、中部教育事務所管内の小中学校での指導・助言、初任者や 2 年経験者を対象とした若年者研修において道徳教育に関する研修の担当、高知県第 2 期道徳推進リーダーの育成に携わる等、道徳教育の推進に努めた。

指導主事として道徳の授業において指導・助言をしていく中で、やはり読み物資料を効果的に生かすという点において課題があることを痛感している。読み物資料を効果的に生かすということは、ねらいとする道徳的価値の理解が当然必要である。さらに授業で使用する読み物資料の分析が必要である。授業者はこの 2 つについて研究して授業に臨むのだが、その多くがねらいを達成する授業になっていない、読み物資料の特性を生かした展開になっていないのである。私はその理由を、ねらいとする道徳的価値の理解を子供たちの実態と照らしながら、使用する読み物資料に落とし込んで考えていないからだと考えている。言い換えると、内容項目理解、子供たちの道徳的価値における現状把握、資料理解の 3 つを関連させて、本時のねらいを設定できていないまま授業を行っていることが、ねらいを達成するために効果的な読み物資料の活用ができていないことに繋がっていると考えるのである。学習指導要領解説道徳編に書かれている内容項目を、1 年間でどう系統性を持たせるのか、1 時間で内容項目のどの部分をねらうのか、そのねらいにふさわしい読み物資料なのかということを考えていくと、読み物資料の特性が掴め、効果的な活用に繋がっていくのだと思う。

ねらいを明確に立てた上で読み物資料を読み込み、その読み物資料のどの部分をどのように考えさせることが、ねらいとする道徳的価値に迫ることになるのかを十分吟

味するというのが、読み物資料の効果的な活用の第一歩だと思う。学校訪問の際に助言する時には、どの授業においてもこの視点を大切に、読み物資料の内容をどのように捉えることが内容項目と関連させることなのかということ伝えるようにした。この理解が進めば、どう発問したらよいか、どの場面で対話させたらよいかと読み物資料を扱う意図が明確になってくると考える。このような助言ができるのは、読み物資料の効果的な活用方法を研究していたからだと思う。

2 平成 28 年度の実践の成果と課題

今年度は、ねらいとする内容項目を理解した上で、どのように読み物資料を解釈していくのかという指導・助言が主であった。研究内容には「実話資料の生かし方」や「共通して心に残った場面の生かし方」等資料分析した上でどう効果的に活用していくのかという視点での研究もしていたのだが、その点においてはまだ踏み込めていない。

しかし、道徳科研究指定校における授業研究や第 2 期道徳推進リーダー育成に係る授業研究において、目の前にいる子供たちの実態をどう捉え、新しい学びのある姿をどうねらうのかという明確なねらいの立て方、授業者のねらいの捉え方について研修を積み重ねる中で、内容項目の理解、読み物資料の分析の仕方等、今年度の実践の課題であった「効果的な読み物資料（教材）の活用の前提となる内容についての理解」が深まり、内容項目理解、子供たちの道徳的価値における現状把握、資料理解の 3 つを関連させて、本時のねらいを設定した授業づくりができるようになってきた。それに伴い、子供たちの道徳の授業への意欲の高まりも道徳科研究指定校の調査から読み取れる。さらに授業者においても、達成感や充実感を味わう授業ができたという声も聞かれた。道徳科研究指定校の教職員、道徳推進リーダーにおいてねらいを達成する授業の基礎となる力が付いてきたことは、今年度の成果である。

ただ、先に述べたように読み物資料の効果的な活用については、研究の成果を生かしたとは言えないのが現状であり、今年度の課題である。次のステップとして、来年度は読み物資料の特性を掴み、それを生かす授業展開を考えていきたい。これは扱う読み物資料により多様な授業展開が考えられることに繋がるものであり、道徳科において求められていることの一つである。今後、指導・助言に自分の研究内容を大きく反映していきたいと思っている。

道徳科研究指定校が、道徳科の趣旨を踏まえ、内容項目理解、子供たちの道徳的価値における現状把握、教材理解の 3 つを関連させて本時のねらいを設定し、ねらいを達成するために効果的に読み物資料（教材）を活用した授業展開を発信していくことで、多くの学校で子供の心に響く授業づくりが実現していくものと考えている。そのために、2 年間の研究の成果を十分に生かした助言をしていきたいと考えている。